会長就任挨拶

視点

佐藤　吉治*
Yoshiharu Sato

皆様，こんにちは。

この度，会長に就任しました佐藤吉治と申します。現在，建設機械メーカの小松製作所（以下コマツ）の技術顧問を務めています。今回，学会誌の貴重な紙面をお借りしてご挨拶を申し上げます。

さて，おそらく大多数の方は私のことをご存じないと思いますので，自己紹介をさせていただきます。私は1958年7月生まれで現在，66歳です。機械工学の修士課程を修了後にコマツに入社し，当初は建設機械用トランスミッションの開発を担当しました。後に車両全体を開発する部署に移り，主に鉱山用の大型ダンプトラックや土砂をすくうホイール式トラクタショベルの開発部門長を務めました。

30年以上，開発部門に身を置いていましたが，その間，さまざまな不具合対策に明け暮れていた印象があります。開発の醍醐味は自分たちが作り上げた商品をお客様に使っていただき，喜んでいただくことですが，その過程ではさまざまな試練があります。開発では想定通りに進まないことが常で，商品企画時に設定したQCD（品質，コスト，納期）をいかに達成するかに毎回苦労しました。

また，市場導入した後にはお客様からの厳しいご指摘（クレーム）に対応するため，主に発展途上国によく出張しました。市場不具合の8割以上は設計責任であり，対策を行う過程で『品質確認をキチンと行ったのになぜ，市場不具合が絶えないのか・・』という疑問は常に持ち続けていました。今から思えば，基本機能を押さえずに開発を行ったことにより，ロバスト性が不足した商品を世に送り出した結果，ということになるかと思います。

最後の3年間はコマツ全商品の品質保証を担う部門の本部長を務めました。その際には自ら開発に携わった商品のクレーム対策を品質保証の立場で行うこともあり，胃の痛くなる日々を過ごしました。

さて，そんな私と本学会との関係ですが，実は昨年，入会したばかりで，これまで本学会での活動経験はありません。少々，裏話になりますが，昨年の11月に本学会の執行部内にて椿前会長の後任について話題となり，次は産業界出身者をというお話があったと伺っています。その際に，前会長と大学の研究室が同じだったという関係で，コマツの会長が後任の人選検討の場に加わり，その中で私の名前があがりました。その後，学会内の指名委員会にて審議を経た上で，6月の臨時理事会にて正式に承認をいただいたという経緯になります。

このように，歴代の会長とは異なった経歴の持ち主だと思います。しかしながら，品質工学の実務経験はありませんが，その必要性については開発や品質保証での実体験を通して痛感しています。また，出身企業のコマツでは20年程前に矢野宏先生のご指導をいただき，品質工学の導入を始めましたが，いまだに定着せずに苦戦が続いている状況です。このように，品質工学の必要性，有用性は分かっていながら，なかなか実務として定着していない企業は他にも多いのではないかと思っています。

正直，品質工学に関しては個人的に敷居の高さを感じており，これは多くの技術者にも通じるところがあると思っています。今回，しがらみのない状態で会長に就任いたしましたので，一般の技術者を代表する立場で品質工学と向き合い，その価値を改め

* コマツ